

会議議事録（要旨）

1 会議名	令和3年度 第5回 柏崎市地域公共交通活性化協議会
2 開催日時	令和3年11月26日(金曜日) 午後2時00分から
3 開催場所	柏崎市文化会館アルフォーレ マルチホール
4 出席者名	別紙のとおり
5 協議事項	柏崎市地域公共交通計画の素案について
6 協議結果の概要	協議事項について、柏崎市地域公共交通計画素案について確認した。
7 審議の内容	
【協議事項】	柏崎市地域公共交通計画の素案について
事務局	資料に基づき、協議事項を説明 (以下、交通事業者の意見)
永井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・バス事業を取り巻く環境は、厳しい状況が続いている。お客様が乗らないからバス本数を減らす、バス本数を減らすとお客様が乗らないという状況の繰り返しとなっている。 ・コロナ前であれば、貸切事業や都市間高速バスから赤字路線の補填をしていたが、コロナによって状況が一変し、貸切バス事業の減少、都市間高速バスがほぼ運行できない、県内高速バスも乗客がなかなか戻らないという状況である。県内高速バスの新潟・長岡線については約80%まで回復してきたが、柏崎線や上越線は50%程度しか回復していないという状況である。柏崎・新潟線についても昨年までは4往復あったものを3往復に減便した。上越線についても状況が悪いため、12月1日から1往復削減という形で進めている。休日の利用状況も少ないため、柏崎市と協議し、12月1日から4路線の一部時間帯で運休拡大を図る方向で進めている。 ・会社としても厳しい状況の中で生き残っていくため、乗降調査をきちんと行い、乗車の少ない時間帯は本数を減らし、乗降状況の悪い路線については廃止、車両の小型化を図りながら経費を削減していくという方向で進めている状況であるため、ご理解をいただきたい。 ・新交通システムについて、現状を見ると、会社としてもやむを得ないと感じている。ただ、幹線と呼ばれる路線については、朝と晩だけでなく、日中時間帯も残してもらいたいと考えている。

<p>(続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乗務員不足が叫ばれているが、日中時間帯の運行がなくなると、勤務形態も変わり、朝と晩だけでは勤務が組めないという状況も発生してくる。この点についても柏崎市と協議させてもらいながら進めていきたいと考えている。 ・システムについては、実施事業者がまだ決まっていない状況であるが、かなり車両台数が多くなることが想定され、車両の購入に当たっては補助金など、それらも含めて協議させてもらいたいと考えている。また、このシステムとなり、競合や不具合が起きないためにも、多くの協議の場を設けてもらいたい。
<p>吉田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシーの地域事情として、柏崎市内はBtoB（企業への送迎等）の利用が多くを占め、BtoC（個人利用）の利用が少ないのが特徴である。 ・現状では、ドライバー不足はないが、その場合は勤務形態等の見直しをして解消していこうと考えている。 ・新交通システムについて、越後交通と行政機関で話し合い、越後交通が1番やりやすい運行形態とし、そこでできなかったものについてタクシー事業者が担うものと考えている。受付に関しては1社が取りまとめてやるのが1番いいと考えている。弊社はタクシー利用に係る相当数のデータベースを持っている。それらを活かしてお年寄りや乗車を希望する人に不便がないような交通体系を構築していきたいと考えている。タクシーから新交通システムに利用者が移る可能性もあるが、実際に運行するなかで利用状況等のデータを見極めていきたい。 ・この先、タクシーも今までのような営業とはいかないため、乗合関係の仕事をやっていかざるを得ないと考えている。今後、新交通システムについて詳細が決まったら他社にも話をしたいと考えている。
<p>佐野副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2事業者から新交通システムに対し、前向きな意見を頂いた。 (以下、質疑応答)
<p>佐野副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協力制度について、地域住民から公共交通について考えていただくためにお金をもらおうと思うが、仮に収支率10%の場合、どの程度の負担となるのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的にはこれから決定していく。地域によって異なる世帯数や公共交通の環境などを考慮しながら、実現可能な金額設定にしたいと考えている。
<p>本間委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新交通システムについて、交通事業者の意見を聞くと、導入はやむを得ないという結論であったが、社会状況や財政状況などを踏まえると本協議会においてもやむを得ないという意見にまとめざるを得ないと思う。

<p>本間委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・しかし、この新交通システムが持続可能かどうか心配である。スタートしたものの長続きしなかったり、市の持ち出しが多くなったりしないのか懸念している。どの程度の費用がかかるのか、試算を我々に提示してもらいたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・また、地域協力制度を初めて認識したが、本当に地域住民から協力が得られるのか懸念される。 ・新交通システムは失敗が許されない施策であると認識している。 ・計画内では利便性の向上に合わせて、運行の効率化も含めている。その観点からも現在の公共交通に係る市の歳出額を超えない範囲で運行できるようにしたいと考えている。そのために、既存の路線バス等の運行本数を調整することも必要である。 ・新交通システムの運行に係る試算については、運行事業者や導入するオンデマンドシステムが、ある程度具体化した時点で協議会において示したいと考えている。
<p>佐野副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な面からいえば、人口や年齢構成の推移などを推定し、5年後や10年後の将来を見据えたものを見せると皆さん安心すると思う。 ・1億6500万円の負担額のなかで導入を検討しているが、例えば5割くらいの金額でできるのであれば、1億6500万円を死守する必要はないと思う。負担額を少し増やせばよりよくなるのか、減らしてもそこまで変わらないのかなど、状況によって柔軟に対応してもらいたいと思う。
<p>田村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域負担制度について、地域住民の同意が得られるのかという話があったが、西山地区では猛反対の意見もあった。全く利用しないのになぜ負担しなければならないのかなどの意見が出ている。地域全体で維持していくための資金であることを理解してもらうため、十分に住民説明を行っていく必要がある。 ・はまなす特別支援学校の通学に係る経路変更と西部地区バス路線の統合では、利便性が高くなる人と低くなる人がいると思うが、意見集約できるのか、考えてもらいたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域負担について、地域内交通を利用していない方が多い中で理解を得るため、丁寧な説明が必要である。西山地域をはじめ、その他の地域でもすでに話をしているが、地域の理解が得られるように引き続き努めていきたいと考えている。 ・はまなす特別支援学校の通学に係る経路変更では、変更後も既存のバス停は全て通過することから、経路変更によって乗車できなくなる方はいないと認識している。

佐野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・はまなす特別支援学校であれば、生徒が使う時間帯が決まっていると思うが、すべての便を変更の対象とするのか、生徒が利用する時間帯だけを対象とするのか。 ・一部便としているが、イメージしているのは朝のみである。帰りについては、既存バス停である松波3丁目を利用してもらうことで考えている。 ・例えば昼の便でも利用者が少なければ合わせて変更してもよいかもかもしれないが、その点については精査し、柔軟に対応してもらいたい。 ・前回の協議会において、新交通システムのような取り組みは北陸ではないという発言を記憶しているが、県内で動きはないのか。 ・誤解を与える言い方をしてしまったが、AI オンデマンドシステムを活用した取組事例は管内にもあるものの、広大な区域や人口集中地区の中で取り組んでいるケースは管内では多く把握していないということを言いたかった。 ・私も柏崎市が計画しているような範囲で運行している事例は把握していないが、とても意欲的でありいい取組だと思う。 ・新交通システムについて、朝と夕方は定時定路線、昼間の人口が少ない時間帯は新交通システムで運行すると聞いているが、郊外路線の朝と夕方は引き続き終点まで行って、昼間の時間帯においては乗り継ぎポイントまでの運行となるのか。 ・その点については今後、交通事業者と協議することとなるが、郊外路線については乗り継ぎポイントを経由し、従来どおり柏崎駅まで結ぶことでイメージしている。昼間の時間帯も同様である。 ・郊外路線においては時間帯によって行き先が変わるわけではなく、現行を維持するということで理解した。 ・システムの路線や乗降ポイント、料金などはスケジュールとしてどの時点で出てくるのか。 ・令和6年度からの試行実施を考えていることから、できれば令和4年度中に協議会において示したいと考えている。 ・1回作ってしまうと作り直すのが大変なので、ポイントごとに提示し、手戻りを少なくしてほしいと思う。 <p>(以下、全体意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素が言われているなかで、公共交通機関を使ってCO2をどのくらい削減できるのかといった指標を用いるとともに、環境にやさしい柏崎として、その考えに理解を示した人の利用を増やすなどの考え方があってもいいのではないか。
事務局	
佐野副会長	
本間委員	
玉巻委員	
佐野副会長	
玉巻委員	
事務局	
玉巻委員	
佐野副会長	
事務局	
佐野副会長	
【その他】	
安井委員	

佐野副会長
【その他】
事務局

- ・非常に重要な昨今の流れであり、環境意識にも目を向けてもらいたいと思う。
- ・12月に書面協議を実施する。時期は12月半ばを予定している。

■協議会の様子

